



建築設備技術者協会(JABME)の新任会長に野部達夫氏(工学院大学建築学部教授)が就任した。低炭素社会の実現に向けて環境に配慮した建物づくりに注目が集まる中、建築設備士の役割の重要性は一段と高まっている。野部新任会長は「物事をあらゆる方向から観察し、創造的な仕事をする人材育成に向けた環境づくりに取り組みたい」と意気込みを語る。(編集部・宮本伸一)

## 高まる建築設備士の役割



(のべ・たつお) 81年早大理工学部卒、89年早大大学院理工学研究科建設工学専攻博士課程修了。83~01年清水建設勤務、98年早大理工学部非常勤講師、01年工学院大学工学部助教授、04年同大工学部教授。14~15年に建築設備技術者協会副会長を務める。東京都出身、58歳。

## 建築設備技術者協会会長 野部達夫氏に聞く

# 創造力備えた人材育成に注力

協会をどうけん引する。「建築設備士は全国に3万6000人いるが、当協会の会員数は9000人程度にとどまる。加入するメリットを広く周知し、会員への勧誘活動を強化する。設備に関わる新しい情報を会員にいち早く発信したい。当協会の継続職能開発制度「JABME ECPD」の参加者はまだ少ない。インセンティブがあれば参加者も増える。業務の発注などでC/PDを活用するよう国などに働き掛けたい」

—2030年までの中長期ビジョンを策定した。

「6月に協会の将来像を示す中長期ビジョン『JABME E VISION 2030』を公表した。ビジョンでは建築設備

士としての建築設備士の役割が期待される」

「経済産業省は2030年度までにZEBを普及させるロードマップ(工程表)を公表している。ZEBの普及に向けた国の施策の実現には協会として先導的なアクションを起こしたい。建築設備界にとって20~30年はエポックになる。ZEBの対応に向けて質的向上を図る講習会や勉強会も増やす」

—人材育成が重要になる。

「若手技術者の育成は義務だ。スマート化やIoT(モノのインターネット)の進展はさらに加速していくだろう。利便性を追求すれば、その反作用として失うものも必ずある。工期の短縮、コスト削減に考え方が偏れ

建築設備技術者協会 果たす役割が年々向上す(JABME)が策定する一方、若手や女性などした「JABME E V将来の担い手の確保が難I S I O N 2 0 3 0 は、しなくなっている。そうし2030年までの協会の 状況踏まえ、ビジョ 将来像を示す中長期ビジ ンでは建築設備に関する ョンだ。副題は「203 業務の魅力や重要性を情 0年へ向けた挑戦」。学 報として発信することも 生や若手、女性が建築分 開いて建築設備の最新情 野に使命感を持って入 報を提供。同協会の「設備 め、協会の活動方針など 女子会」の活動を支援し、 を8項目にまとめた。 女性会員がより活躍でき 14年の改正建築士法で る環境整備を推進するほ 建築設備士が法律に位置 か、ゼロ・エネルギービル 付けられ、建築設備士が (ZEB)の普及活動や大

## 30年までの中長期ビジョン策定

規模災害への対応など、協会としての社会貢献活動も織り込んだ。

JABME E V I S I O N 2 0 3 0 に盛り込んだ項目は次の通り。

▽JABME Eの理念と活動の基本方針

▽建築設備士の地位向上、地位向上への取り組み、人材育成

▽省エネルギーへの基本的貢献、地球温暖化対策への貢献、ZEBへの挑戦

▽安全・安心、大規模災害への対応、BCPシナリオの開催、設備女子会など。

性(ワエルネ)の視点、医療福祉分野への展開

▽新分野への挑戦、スマートコミュニティ、ストックへの挑戦、これからのBIMと建築設備

▽国内外交渉、建築設備関係団体との協同行政への情報提供、国際化対応

▽効果的な組織運営、協会の組織構成とその効率的運用、財政基盤の充実、会員入会促進など

▽会員サービスの充実、情報の提供、講習会・シンポジウムの開催、設備女子会など。

## 設備女子会の活躍期待

ば、仕事が一歩前進する方向に進み、大事なことを見失い、技術者のセンスがなくなるに危惧している。単に仕事をこなせる人材づくりを目指すのではなく、自らの知恵と経験を総動員して問題解決に当たることができるよう判断力を備えた視野の広い人材を育てたい。若者向けに実際の現場や完成後の施設を見学する機会を増やすなど、協会として人材育成に力を入れたい」

—女性が活躍できる環境整備は。

「建築設備界で女性技術者はまだ少数派だ。ただ、大学で建築設備を学ぶ学生のうち、女性は3割を占めている。当協会も女性会員の割合を全体の3割まで引き上げたい。活発な活動を展開している設備女子会の活躍に大いに期待している。今年の役員改選で女性理事も誕生した。まずは女性活躍の場を広げる第一歩と捉えている」

—他団体との連携は。

「他の関連団体との連携も深める。7月に熊本地震の被災地で空気の調和・衛生工学会と共に調査に入る。設備6団体で構成する建築設備6団体協議会「は志を同じくする人たちであり、これまでも建築設備士の地位向上に一緒に取り組んできた。単独ではできないことも多い。各団体のアイデアを共有しながら、相乗効果が期待できる取り組みを進めたい」。